

住宅地のおいに関する意識調査 (2)

— 日進市香久山 1～3 丁目を対象に —

A Questionnaire Survey on Aroma-scape at a Residential District (2) - A Case of Kaguyama 1, 2 and 3 Districts -

和泉 潤・宮田靖子

IZUMI Jun and MIYATA Yasuko

Abstract: This survey aims to clarify the effect of a smell or fragrance in the Kaguyama district in Nisshin-shi, Aichi Prefecture, where the community planning using fragrance has been carried out, by the questionnaire survey to the residents living in the district. The result is that the community planning using fragrance has effects on the residents, who feel the seasons through smell or fragrance of flowers and trees, which are necessary and indispensable for amenity in the district.

Keywords: *Aroma-scape, Smell, Fragrance, Amenity*

1. はじめに

昨年、日進市香久山 4・5 丁目を対象に、住宅地のおいに関する調査を実施した。この調査で以下の点が明らかになった。①多くの居住者は季節を「におい(かおり)」で感じている。②それに貢献しているのが、草花・樹木の「におい(かおり)」であり、これは居住者に心地よさを与えるとともに、安らぎや懐かしさをも与えている。③気になるにおいの 1 番目に自然があげられている。④居住者は香久山団地が好きであり、その多くが団地内を自然に親しむためによく散歩している。⑤団地の中で嗅覚を研ぎ澄ませて、季節毎に季節の「におい(かおり)」を感じている。⑥団地内には自然以外に多くの人工的なにおい(悪臭)があり、研ぎ澄ませているが故に換気扇排気口から出るにおい、ごみ集積場のにおい、自動車の排ガスのにおいには敏感になり、気になるにおいとしてあげている。自由回答では、①不快なおいの削減要望、②よい「におい(かおり)」の要望、③まちづくりへの要望、④広報・PR、などにまとめられた。これらから、居住の快適性は、「におい(かおり)」からつくられ、それには、草花・樹木と言った自然が必要不可欠なものと言うことができる。

そこで、本調査では、昨年に引き続き、日進市香久山団地の残りの住宅地(1～3丁目)を対象に、同じアンケート調査を実施し、住民の快適性に関する意識から街づくり・住まいづくりへの「におい(かおり)」の効果を検証し、今後のまちづくりを考える一資料とすることを目的としている。なお、調査の対象地である香久山団地の「木々の緑と花のかおりのする街づくり」については、昨年の報告を参照されたい(和泉・宮田、2009 参照)。

2. においに関する意識調査

2-1 調査の内容

本調査は、昨年と同じ調査票を用いた。すなわち、大きく 3 つの部分に分けられる。①回答者の属性、②においについて、および③香久山団地のまちづくりについてである。においについては、季節のにおいを感じるかどうか、そのにおいの源は何か、心地よさや安らぎなどを感じるにおいの源は何か、身の回りで気になるにおいは何かを聞くもので、問 5～11 の 7 問あり、「におい(かおり)」に対しての意識を探る。香久山団地のまちづくりを聞く部分は、団地内での行動、においを感じる頻度、気になるにおいおよびまちづくりを

聞くもので、問 12～20 の 9 問あり、自由記述の 1 問を加えて、香久山団地の「におい（かおり）」のまちづくりの効果を探る。

2-2 調査の方法

本年の調査では、香久山 1 丁目・2 丁目・3 丁目の全世帯を対象に調査票を郵送配布し、記入済みの調査票を同封の封筒により郵送回収した。対象世帯は 1 丁目 475 世帯、2 丁目 397 世帯、3 丁目 654 世帯の計 1,526 世帯であり、「配達地域指定」郵便を利用して 2009 年 11 月 18 日に郵送配布し、2009 年 12 月 12 日を返送の締め切りとした。締切日までに 267 票の返送があったが、その後 9 票の返送があったので、これを加えて回収票は 276 票となった。そのうち 1 票が無記入であったので、有効回収票は 275 票（有効回収率 18.0%）である。

2-3 回答者の属性

回答者 275 人の属性について、まず性別では、男 32.4%、女 67.6%で、男女比は 1 対 2 である（図 2-1）。年齢別では、60 代以上が最大で 31.6%、続いて 50 代の 25.1%、40 代の 23.6%、30 代の 14.5%、20 代は 4.7%、10 代は 0.1%となっている（図 2-2）。居住年数については、11 年以上の居住者が半数を超えており（64.4%）、つづいて 4～10 年の 22.9%で、3 年以内の居住者は約 1 割となっている（図 2-3）。居住している住戸の形式については、戸建て住宅が 65.7%と 3 分の 2 を占め、集合住宅は 33.6%となっており、昨年の調査とは居住する住戸形式は逆転している。ただ 2 票だけがその他（0.7%）を選択していた（図 2-4）。

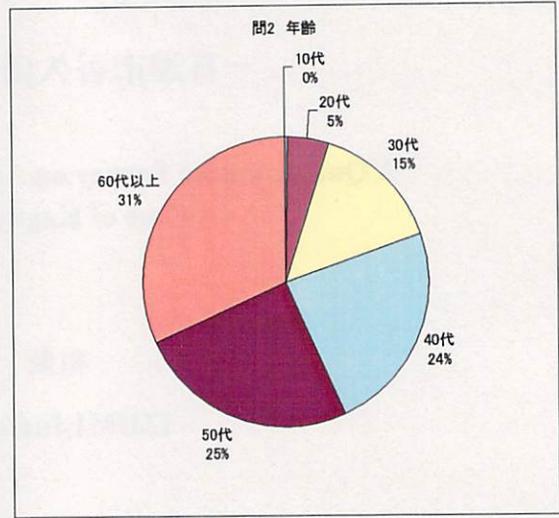


図 2-2 年齢別

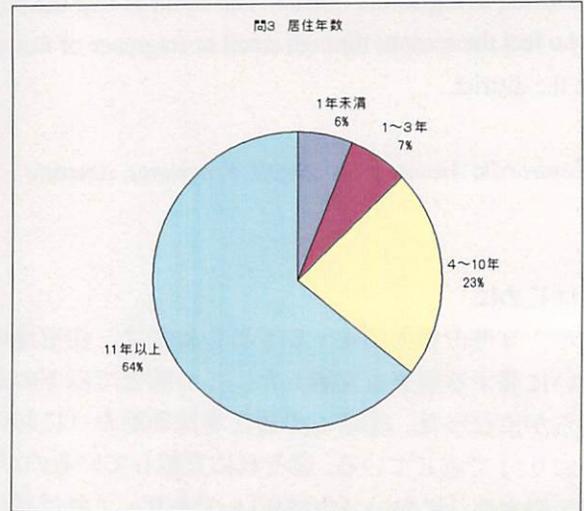


図 2-3 居住年数

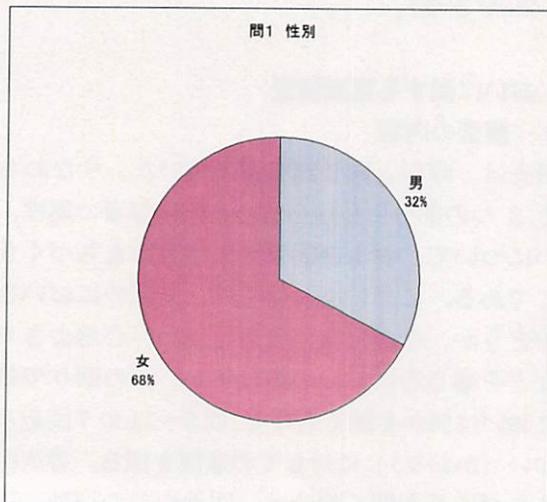


図 2-1 性別

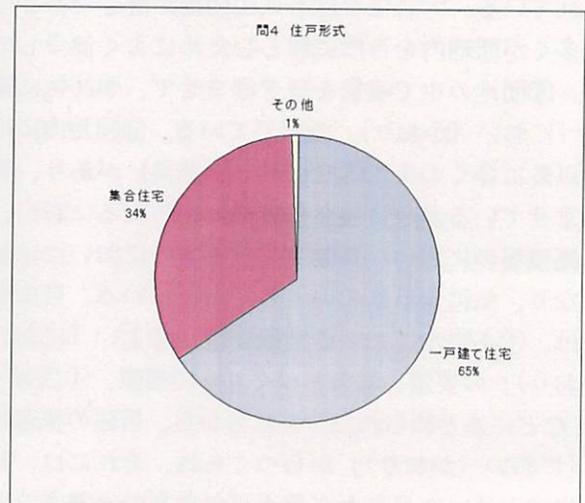


図 2-4 住戸形式

3. 意識調査の分析

3-1 においについて

（1）においで季節を感じる

ここでは、問5～11の7問の単純集計から、においについての居住者の意識をみる。まず、問5のにおいで季節を感じるかどうかであるが、図3-1に示すように、84.2%の回答がにおいで季節を感じるものであった。ほぼ7人に6人がにおいで季節を感じている（図3-1）。「におい（かおり）」で季節を感じる調査は10年ほど前にもいくつかの自治体などで行われており、それによると、「におい（かおり）」で季節を感じる人の割合は、鎌倉市では76.1%、松本市では85.1%、堺市72.7%となっており（環境庁大気保全局大気生活環境室、2000）、昨年と同様今回も意識は比較して高い割合であるといえる。

（2）においで感じる季節

では、どのような季節をにおいから感じているかを問6の自由記述で聞いており、回答者あたり平均2.5の季節があげられた。記述回答は昨年の分類を使用して、初春・春・晩春、初夏・梅雨・夏、初秋・秋・晩秋、初冬・冬の10に分けた。どちらの季節に入れてよいか判断しかねる記述については、その他とした。それらをさらに、まとめて春・夏・秋・冬およびその他とした集計結果を図3-2に示す。春や初春・晩春など春をあげた回答者は78.5%に上り、冬が明けて花が咲き、かおりが漂う春を感じ取っている。続いて秋が75.8%、夏が63.7%で、冬をにおいで感じ取る回答者は4人に1人（26.9%）しかなく、冬のおいには比較すると関心を持たれていないといえる。冬は雪の降る前のおい、雪のおいなど冬を特徴づけるにおいがあるが、人間にとって厳しい季節であるのでおいは関心を持たれないものと考えられる。一方で、夏にまとめた「梅雨」をにおいで感じる回答者は10.8%いた。梅雨は、この時期の植物のにおいも含めて梅雨のにおいとして感じ取っているのではないかと考えられる。また、夏のうち、初夏をあげた回答者は21.5%であり、この時期の季節の大きな変化を感じ取っているのではと考えられる。

（3）季節を感じるにおい

さらに、季節を感じるにおいの発生源を問7で聞いている。15のにおいの発生源およびその他の回答の結果を図3-3に示す。回答者数は231人で、回答者1人あたり5.1の発生源をあげている。これによると草花、樹木、枯葉・落葉といった植物系が上位を占めており、草花が1番目で89.2%とほぼ9割の人が草花によりい

ずれかの季節を感じている。続いて樹木の81.0%であり、枯葉・落葉は42.9%で4番目にあげられている。3番目は風、5番目は雨、6番目は日光と自然のものが季節を感じるのに大きく貢献している。焚き火という冬、花火という夏の風物詩も季節を感じるにおいとしてほぼ4人に1人があげており（26.4%、24.2%）、田畑・土もあげられている（28.6%、26.4%）。海も5人に1人があげている（19.5%）。雪、湖沼・河川はあまりあげられなかった。社寺は4.3%で、季節を感じるにおいの発生源（彼岸の線香など）にはなっていない。やはり、草花、樹木などの自然の「におい（かおり）」が、季節感を感じさせる大きな発生源になっている。なお、その他では、「食べ物などのにおい」「蚊取り線香」「干した布団」「薪ストーブ」など13種のにおい発生源があげられた。

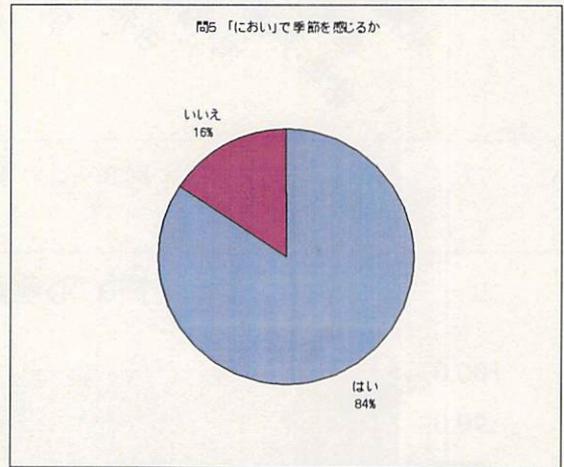


図3-1 「におい」で季節を感じる

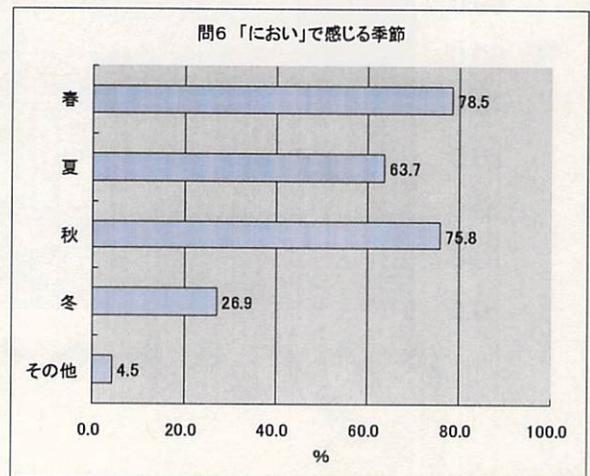


図3-2 「におい」で感じる季節

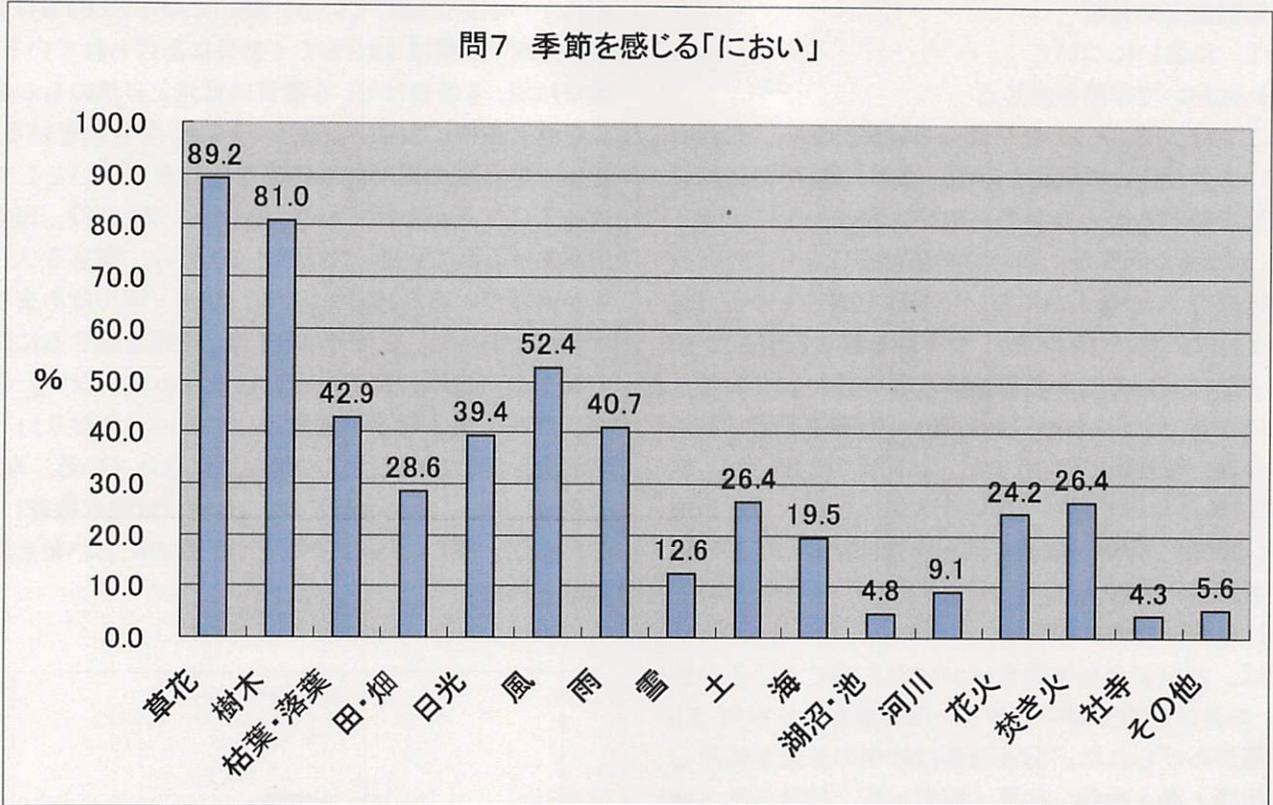


図3-3 季節を感じる「に思い」

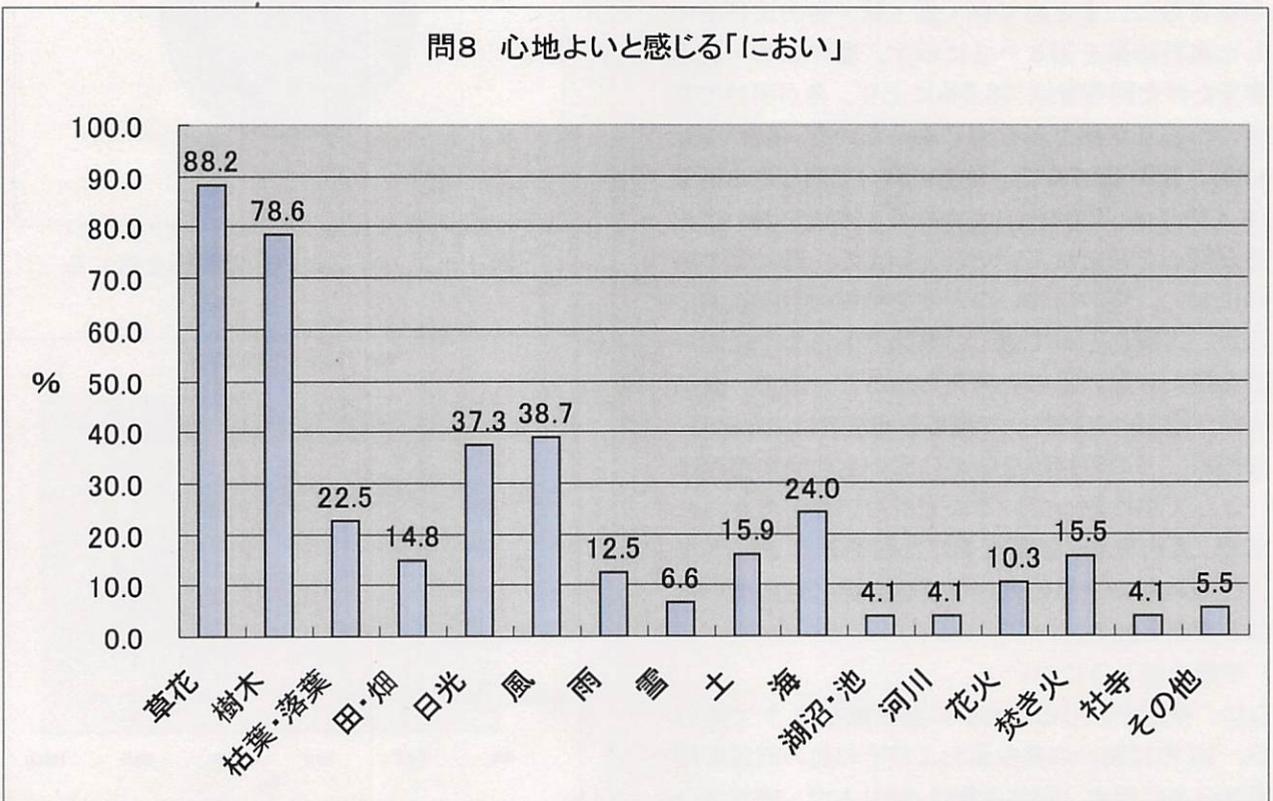


図3-4 心地よいと感じる「に思い」

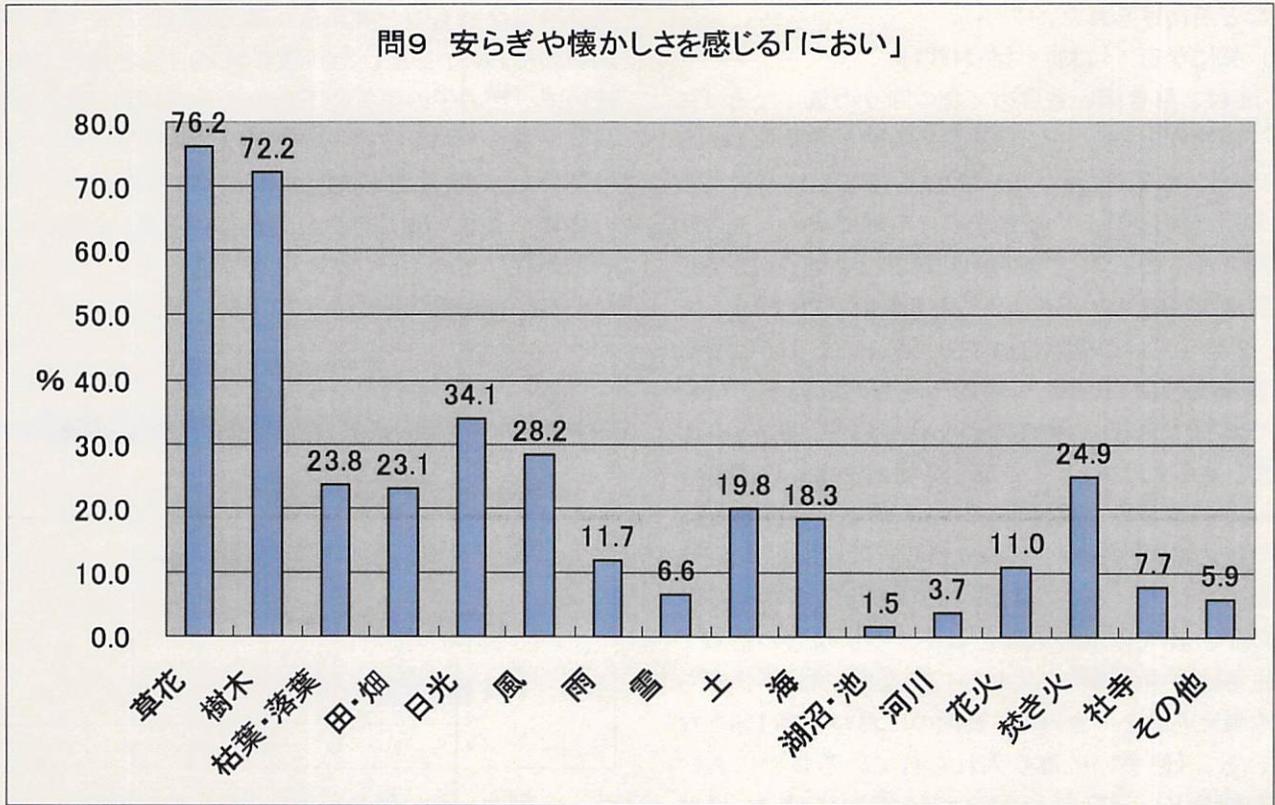


図3-5 安らぎや懐かしさを感じる「ににおい」

(4) 心地よいと感じる「ににおい（かおり）」

季節を感じるにおいと同様の発生源を用いて、問8では心地よいと感じる「ににおい（かおり）」について聞いている。その結果を図3-4に示す。回答者数は271人で、回答者1人あたり3.8の発生源をあげている。上位3番目までは、問7と同じで草花、樹木が抜きんで高く9割弱、8割弱となっており、風が約4割になっている。心地よさが季節を感じさせているという仮説が成り立つと考えられる。続いて日光が4番目であり、季節ごとのにおいを視覚によって感じているものと考えられる。5番目の海は季節を感じさせないが、潮のにおいなどが心地よさを与えている。一方、雨は4割の回答者が季節として感じているが、梅雨に代表されるようにあまり心地よいとは感じていない（12.5%）。同様に、枯葉・落葉も4割を超える回答者が季節を感じているが、その半数しか心地よいとは感じていない。これから来る暗い冬のイメージがあるのではと考えられる。なお、その他では、「食べ物などのにおい」「蚊取り線香」「干した布団」「薪ストーブ」「香水」など19種の発生源があげられた。

(5) 安らぎや懐かしさを感じる「ににおい（かおり）」

同様に、問9でも同じ発生源を用いて、安らぎや懐かしさを感じる「ににおい（かおり）」について聞いている。

その結果を図3-5に示す。回答者数は273人で、回答者1人あたり3.7の発生源をあげている。やはり、草花と樹木が1番目と2番目を占めているが、問8の心地よさに比べると、草花で12.0ポイント、樹木で6.4ポイント低くなっている。3番目は日光で3.2ポイント減少し、4番目に下降した風は10.5ポイント減少している。5番目の焚き火は9.4ポイント上昇しており、子どもの頃の焚き火で遊んだ思い出があるものと考えられる。なお、その他には食べ物などのにおい「蚊取り線香」「干した布団」「薪ストーブ」「香水」「赤ちゃんのにおい」など10種類があげられた。

(6) 安らぎや懐かしさを感じる理由

問10では、安らぎや懐かしさを感じる理由について聞いている。その結果を図3-6に示す。回答者数は268人で、回答者1人あたり1.7の理由をあげている。最大の理由は、「子供の頃に身近だったから」で65.3%があげている。続いて「懐かしい風景を思い出すから」が44.0%、「故郷を思い出させるから」が28.7%、「印象深い過去の体験を思い出すから」が17.2%となっている。クロス集計をすることでより明確になるが、焚き火が倍増して上位にあげられたのは、子供の頃の思い出であると考えられる。なお、その他には「気持ちが落ち着く」「安らぐ」「気分がよくなる」「好きなかお

り」などがあげられた。

（7）気になる「におい（かおり）」

問11は、好き嫌いも含めて身の回りの気になる「におい（かおり）」を、その他を含めて9の選択肢から1番目に気になる「におい（かおり）」、2番目に気になる「におい（かおり）」と順番をつける問である。その結果を図3-7に示す。1番目の回答者は256人、2番目の回答者は249人である。2つとも無回答者は19人であり、2番目だけの無回答は7人であった。1番目で気になる最大のにおいは、「植物や花などの自然のにおい」であり、24.6%の回答者があげている。問7~9の回答で、いいにおいとして草花や樹木を多くの回答者があげていることを裏付けているものと考えられる。逆に「街の中の排気や下水のにおい」は23.0%の回答者があげており、不快なにおいの代表として考えられる。以下、10%以上のものとして、不快なものとしての「住まいの中の不快なにおい」15.2%、快・不快どちらも考えられる「食べ物・調理のにおい」14.1%となっている。「住まいに取り入れられている良いにおい（芳香剤など）」「畳や木の柱などの良いにおい」はいずれも5%以下であり、1番目にあげられるほどのイン

パクトはないものと考えられる。2番目では、「食べ物・調理のにおい」をあげた回答者が20.1%と最大であり、続いて「街の中の排気や下水のにおい」が19.3%となっている。「住まいの中の不快なにおい」が16.5%となっている。「香水など人間の体につけるにおい」「人間の体臭」「住まいに取り入れられている良いにおい」「畳や木の柱などの良いにおい」が割合としてはそう多くないが、1番目の倍になっている。

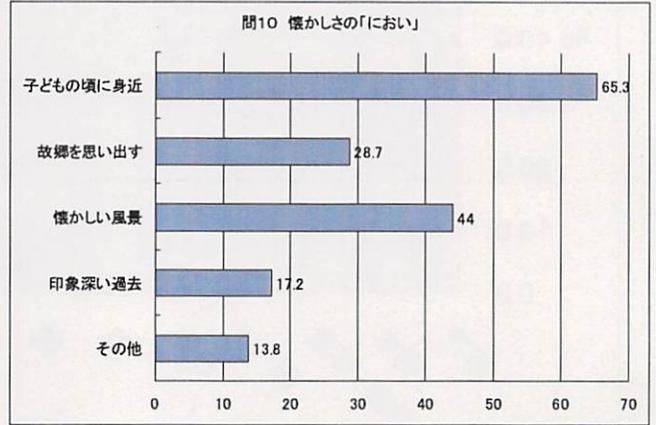


図3-6 懐かしさの「におい」の理由

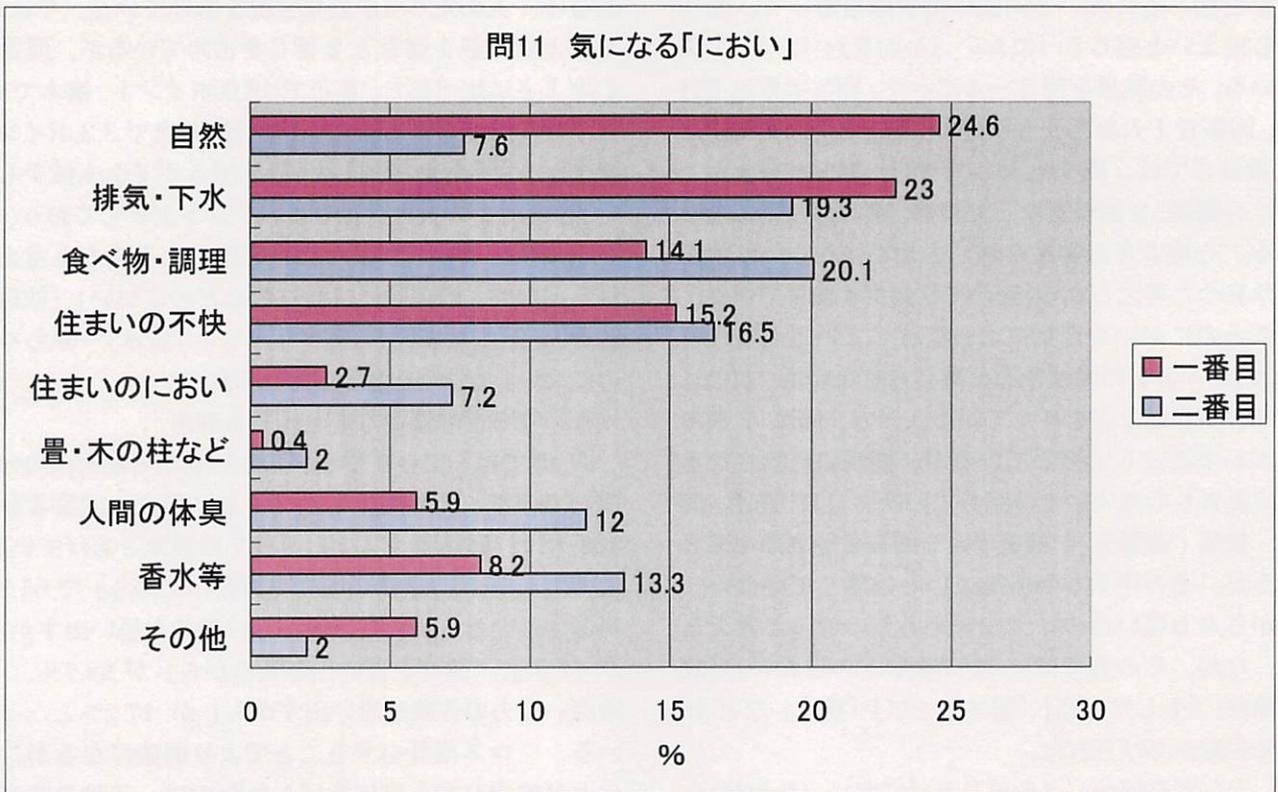


図3-7 身の回りで気になる「におい（かおり）」

3-2 香久山団地のまちづくりについて

（1）香久山のまちの好き嫌い

ここでは、問 12～20 の 9 問の単純集計から、香久山団地のまちづくりと「におい（かおり）」についての居住者の意識をみる。まず、問 12 のまちの好き嫌いについては、回答者 270 人中、97.0%にあたる 262 人が好きと回答している(図 3-8)。嫌いと回答した回答者は 8 人 (3.0%)、どちらでもないとは回答した回答者はいなかった。したがって、ほとんどの居住者は好きであると考えられる。

（2）まちの中をよく行く場所

好きであるからこそ散歩などで普段よく行く場所も多いと考えられるので、問 13 では、その場所を聞いた。223 人から回答があったが、よく行く場所はないと回答した回答者は 34 人(15.2%)いた。よく行く場所を持っている回答者は 189 人 (84.8%) であり、団地内・団地外併せて延べ 219 カ所があげられている。したがって、1 人あたり 1.1 カ所よく行く場所があり、団地内には延べ 181 カ所 (82.6%)、団地外延べ 38 カ所 (17.5%) である (図 3-9)。

団地内によく行く場所をまとめてみると、回答者 223 人が、株山中央公園など (36.3%)、緑道を含めた香久山団地内 (25.1%)、水晶山緑地 (8.5%)、ユニーなどの商業施設 (4.9%)、公共施設 (5.4%) によく行くとなっている。やはり、団地内の自然のある場所に散歩や子供と遊びに行ったりしていることがうかがわれる。一方、団地外では、回答者 18 人が牧野ヶ池緑地(8.1%)、天白川ウオーキングコースなど(6.7%)、その他(2.2%)があげられている。団地外でも自然に親しむような場所に行くことがみとれる

（3）よく行く理由

問 14 では、問 13 での場所に行く理由を聞いている。自由記述であるため、それをまとめると、①自然に親しむ、②子供と一緒に訪れる、③生活に利用（買物など）、④健康を高める（犬の散歩を含む）、⑤利便性や機能性（近い・道路が広いなど）、⑥快適性（安らぎ・癒し・落ち着くなど）、⑦その他、に集約できた (図 3-10)。189 人が回答している。最大の理由は①自然に親しむであり、3分の1の回答者があげている。続けて④健康を高めるが 23.3%、⑤利便性や機能性が 18.5%となっており、身近な自然に親しみながら散歩することで健康を高めていることを理由に散歩を行っているものと考えられる。一方、自然がたくさんあることによる⑥快適性を理由とした回答者は 11.1%しかいなかった。香久山のまちが好きであることは、自然に親しめる場所が身近に数多く用意されているため、そこを利用することで快適性よりはむしろ健康的な生活を送ることができることを意味している。

（4）においを感じる頻度

問 15 では、団地内でおいを感じる頻度を聞いた。その結果を図 3-11 に示す。無回答の 5 人を除く 270 人の比率である。季節的に感じる回答者が半数を超えており、季節をにおいで感じる回答者(問 5)の多くは、団地内で季節のにおい、特に草花や樹木の季節によって異なるにおいを感じている。いつも感じている人は 1 割弱であり、時々感じる人は 3 割となっている。一方、感じない人は 6.3%ある。いずれにしても、季節的に感じる回答者が半数を超えていることは、「かおりを活用した街づくり」が無意識的にしろ住民の間に浸透しているものと考えられる。

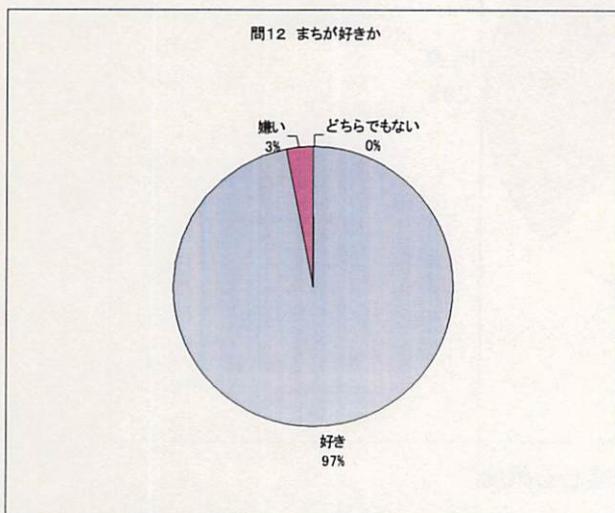


図 3-8 まちが好きか

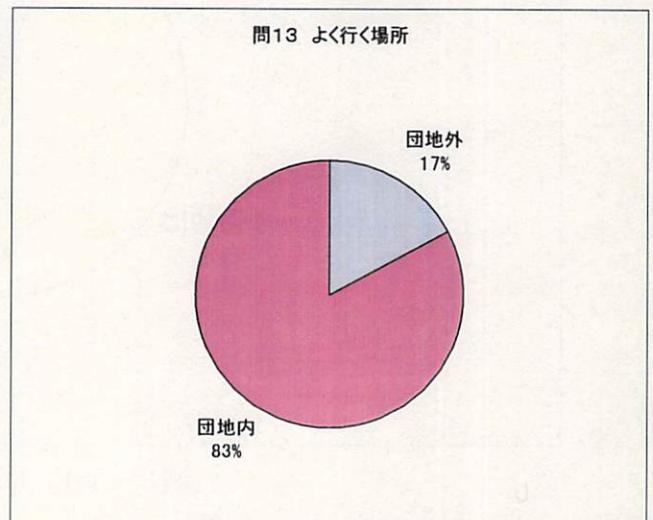


図 3-9 よく行く場所

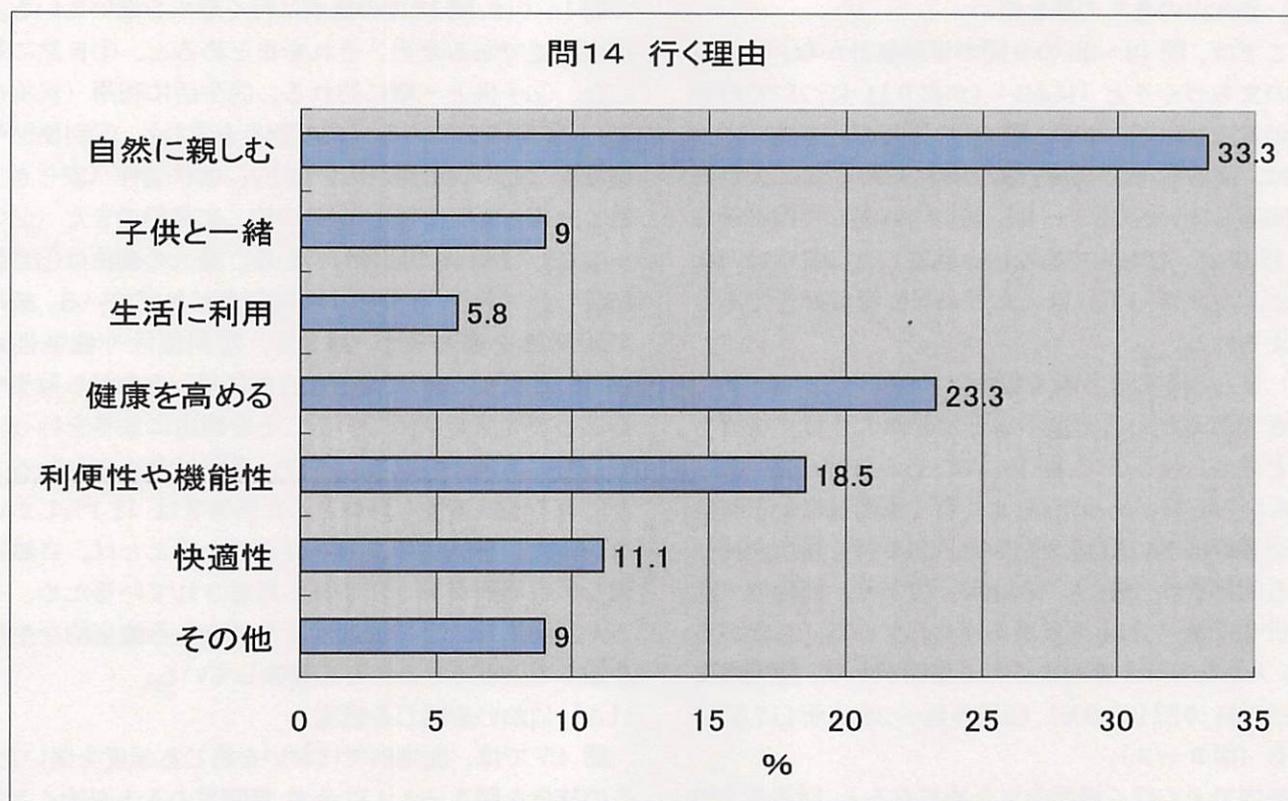


図3-10 行く理由

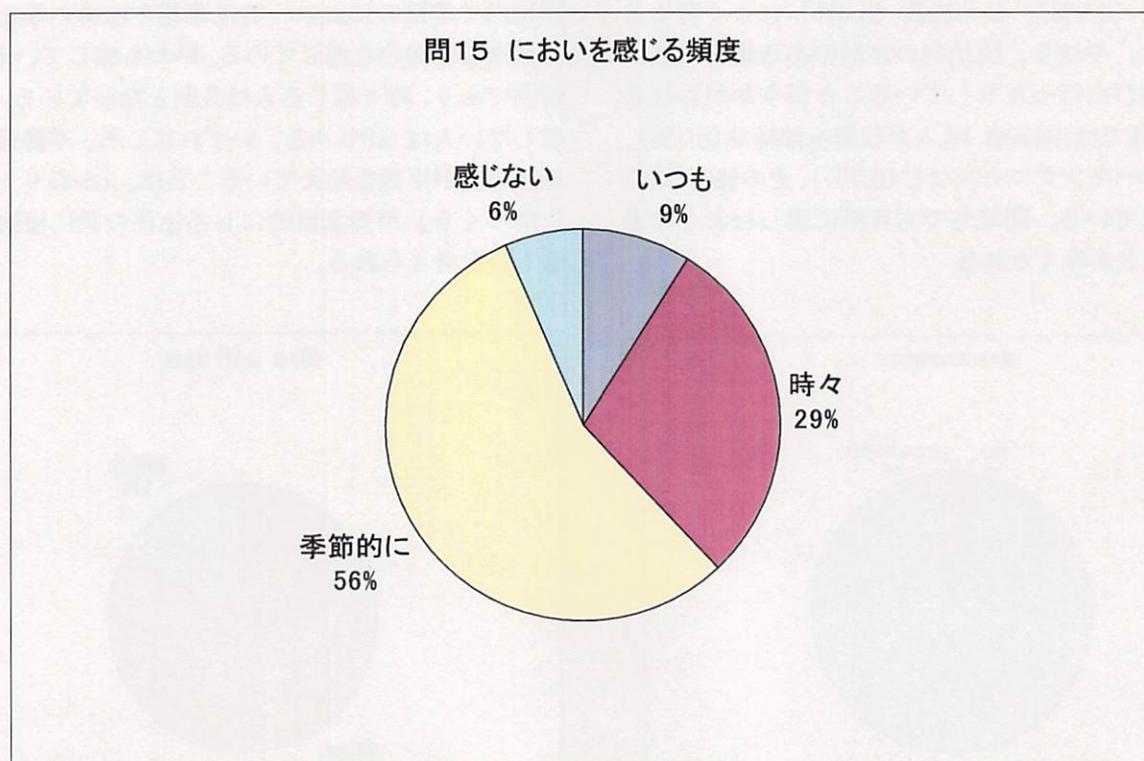


図3-11 においを感じる頻度

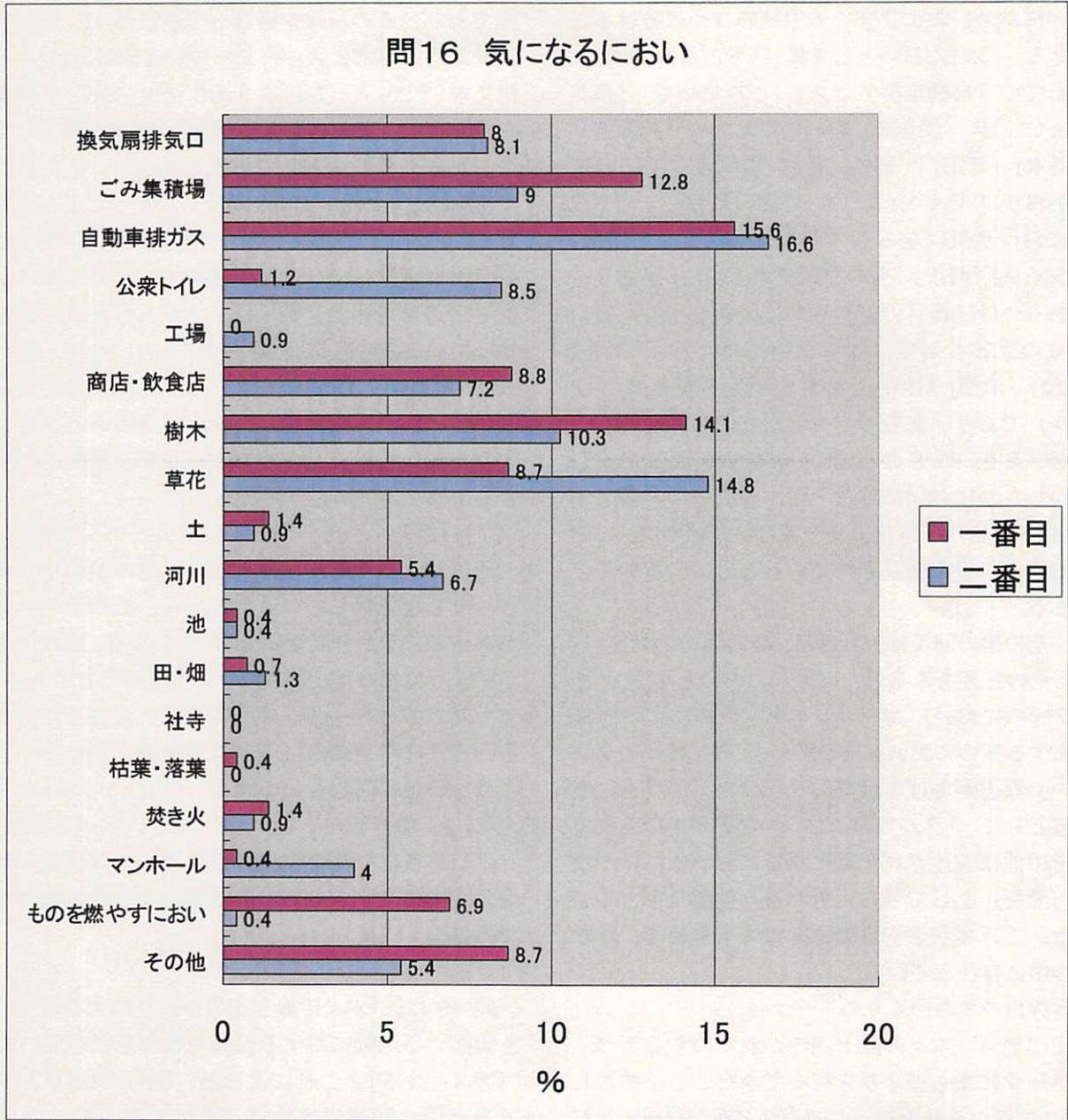


図3-12 まちの中で気になるにおい

（5）まちの中で気になる「におい（かおり）」

問16は、好き嫌いも含めてまちの中で気になる「におい（かおり）」を、その他を含めて19の選択肢から1番目に気になる「におい（かおり）」、2番目に気になる「におい（かおり）」と順番をつける問である。その結果を図3-12に示す。1番目については250人回答し、2番目は213人回答した。したがって、2つとも無回答は25人であり、2番目だけの無回答は37人であった。1番目では、「自動車排ガス」のにおいが最大で15.6%、続いて「樹木」が14.1%、「ごみ集積場」のにおいが12.8%、といずれも10%を超えている。以下5%以上の回答比率では、「商店・飲食店」「草花」「ものを

燃やすにおい」「河川」となっている。逆に回答者が5人（2.0%）以下には、「土」「焚き火」「公衆トイレ」「田畑池」「池」「枯葉・落葉」「マンホール」があった。回答がなかったものは「工場」「社寺」であった。一方、2番目では、「自動車排ガス」が最大で、16.6%、続いて「草花」14.8%、「樹木」10.3%が10%を超えている。以下5%以上の回答比率では、「ごみ集積場」「公衆トイレ」「換気扇排気口」「河川」。逆に回答者が10人（4.0%）以下には、「マンホール」「田畑」「工場」「焚き火」「池」「ものを燃やすにおい」があり、回答がなかったものは「社寺」「枯葉・落ち葉」があった。

これより、1番目・2番目とも①多いにおい、②少な

いかないにおい、および③その中間の3つに分けることができる。多いにおいとしては、いやなにおいの発生源としての「自動車排気ガス」「ごみ集積場」「換気扇排気口」「商店・飲食店」といいにおいの発生源としての「樹木」「草花」である。まちの中の気になる「におい（かおり）」としては、いい自然のにおいといやな人工のにおいが気になるものと考えられる。中間は、「公衆トイレ」「河川」「ものを燃やすにおい」があり、一番目あるいは二番目のどちらかに大きく出ている。逆に多くの回答者が気にならないにおいが、「工場」「土」「池」「田畑」「社寺」「枯葉・落葉」「焚き火」「マンホール」であり、まちの中であまりにおわないものであるといえる。問8の心地よいにおい、問9の安らぎや懐かしさのにおいに草花・樹木が高いのと呼応するが、問16で樹木が草花より一番目が高いのは、においのする樹木が多く植栽されていることによるものと考えられる。

なお、その他の回答は、1番目、2番目合わせて11あった。その記述をみると、いやなにおいとして、「浄化センターのにおい」「ガソリンスタンドのにおい」「樹木に散布する薬のにおい」「動物（犬・猫・鶏）のフンのにおい」などがあげられており、また、悪臭という生活公害として、「タバコのにおい」などがあげられている。その他に記述された気になるにおいは、いやなにおい（悪臭）としてとらえられる。生活公害としての悪臭は、ごみ集積場や自動車排気ガスも含めて、かなりまちの中に存在している。

（6）香久山のまちづくりのテーマ

香久山団地が「木々の緑と花のかおりのする街づくり」をテーマにまちづくりを行ってきたことは前述した。問17では、それを知っているかどうかを聞いた質

問であり、その結果を図3-13に示す。無回答の3人を除くと、272人中、知っている回答者は1割にも満たない20人（7.4%）しかいなかった。事業開始から約25年、「まちびらき」から約20年を経過していることが一つの理由としてあげられるが、他に当時の住宅・都市整備公団のPRが普及しなかったことも考えられる。約10年前のアンケート調査でも、「街づくり」のテーマを知っているかの質問で、初めて聞いた人が約3分の2を占め、聞いたことがある人が約2割で、知っているとの回答は12.9%であり（住宅・都市整備公団中部支社、1998）、このことから周知があまりなされていなかったと思われる。折角のいいまちづくりを行っているので、多くの人を知り、積極的に参加できるような体制が必要である。

（7）「香り」をテーマにした街づくりへの関心

そこで、日常的に「木々の緑と花のかおりのする街づくり」を体験していることから、このテーマに関心があるかどうかを問18で聞いたところ、図3-14に示すようになった。無回答の5人を除く270人中、「とても関心がある」「少し関心がある」を併せた関心のある回答者は約8割に上り、居住するにあたって、このような団地に住むことの関心の度合いが高いものといえる。約10年前のアンケート調査でも、「とてもある」「少しある」を併せると86.5%であり（住宅・都市整備公団中部支社、1998）、ほぼ同じような関心の度合いである。

（8）ボランティア活動について

問19は、「木々の緑と花のかおりのする街づくり」を実践する活動に対する関心や参加意欲を聞いている（図3-15）。これによると、「関心があり、参加してみたい」回答者は約4分の1を占めているが、

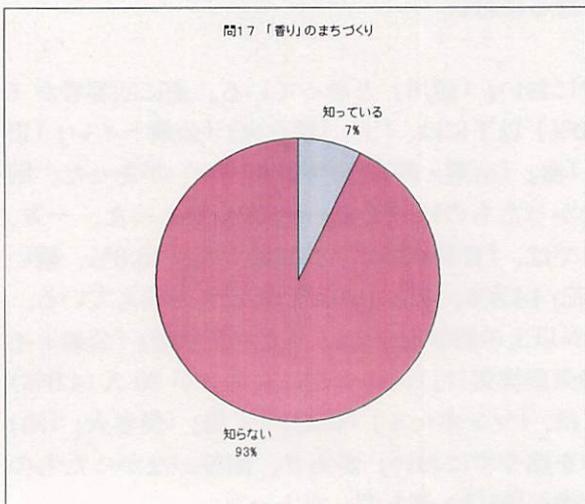


図3-13 香りのまちづくり

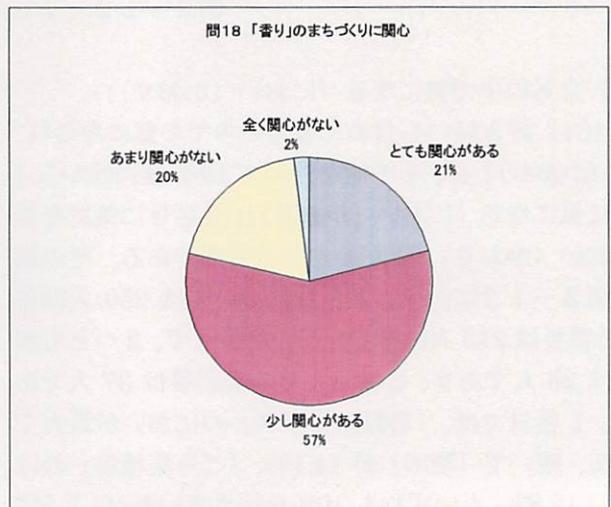


図3-14 香りのまちづくりに関心

その反面、「関心はあるが活動には参加したくない」回答者は6割を超えており、よい環境を享受するが自ら進んで快適な環境づくりを行おうという意欲はない。そこで、「関心がない」回答者は約1%であるので、この約3分の2の不参加者をどうやって参加してもらうのかが、今後のまちづくりを考えていく上で課題といえよう。関心があつてすでに参加している（公園愛護会など）回答者は、その他に記述しており、9.2%が参加または参加していたと記述している。約10年前のアンケート調査では、設問および選択肢が異なるので単純な比較はできないが、ボランティアの参加意欲については、「してみたい」との回答者は32.4%であり、今回の調査での「関心があり、参加してみたい」と「その他」の記述での参加または参加していたを併せると35.0%(昨年度の調査では32.8%)になり、ほぼ同じような割合になっている。言葉を換えると、時が流れても3分の1の居住者はまちづくりへの参加する意欲を持っているといえる。

（9）「におい（かおり）」の活用

身の回り、まちの中がいい「におい（かおり）」、悪いにおい（悪臭）が溢れているが、いい「におい（かおり）」を積極的に暮らしの中に活かしているかどうかを問20で聞いている。問には、選択肢から「一つ」を選択するように書いてあるが、複数を選択した回答者がいたので、それらをすべて「その他」として扱った。無回答の21を除くと、暮らしの中への活用は「ガーデニング」が32.7%で、つづいて「アロマセラピー」の19.7%、「かおりのインテリア」の14.2%、「ハーブティー」の6.7%などとなっている（図3-16）。美容やハーブクッキングは少なかった。「ガーデニング」「かおりのインテリア」が多いのは「かおりを活用した街づくり・住まいづくり」とも関連しているので、この

ような活動は、問19のボランティア活動にもつなげていくことが可能である。「アロマセラピー」は流行の癒し系の元祖といえるもので、約2割の回答者があげている。なお、複数回答は2つから4つまでの選択肢の組み合わせであり、その中で、一番多く用いられた選択肢は「アロマセラピー」である。続いて「ガーデニング」「かおりのインテリア」「ハーブティー」であり、上記の記述を裏付けていると考えられる。

3-3 自由回答

問21は、香久山団地のかおりあるいは「五感のまちづくり」について自由に記述する問であり、113人（41.1%）の回答者が記述している。これをまとめると大きく4つに分けられる。

（1）不快なおいへの削減要望

不快なおい（悪臭）に対しては、問16にもあげられているように、気になる回答者が多いが、その発生源については、以下のようなになる。影響を受ける住民だけでは対応できないので、行政の関わり、住民のマナー向上などが必要である。

- ① 浄化センター・小川・用水路のにおい
- ② 自動車の排気ガス
- ③ 商店の排気口からのにおい
- ④ タバコのにおい
- ⑤ 犬・猫の糞のにおい
- ⑥ もの（除草後の草）を燃やすにおい
- ⑦ 悪臭・異臭の排除

（2）よい「におい（かおり）」の要望

よい「におい（かおり）」を回りに増やす要望であり、次の2つに分かれる。

① 施設・装置の設置（配置）

これには、「匂のにおいを感じる環境づくり」「ハ

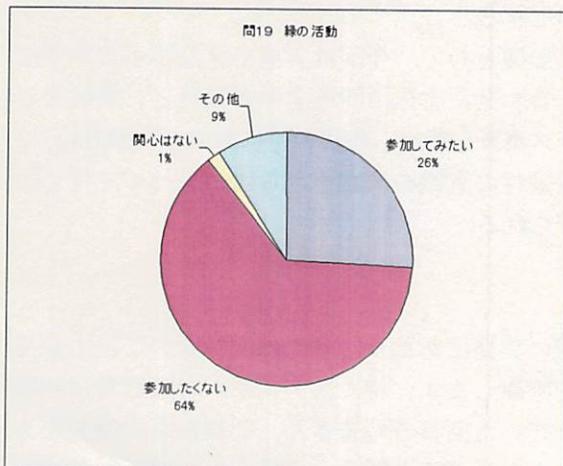


図3-15 緑の活動

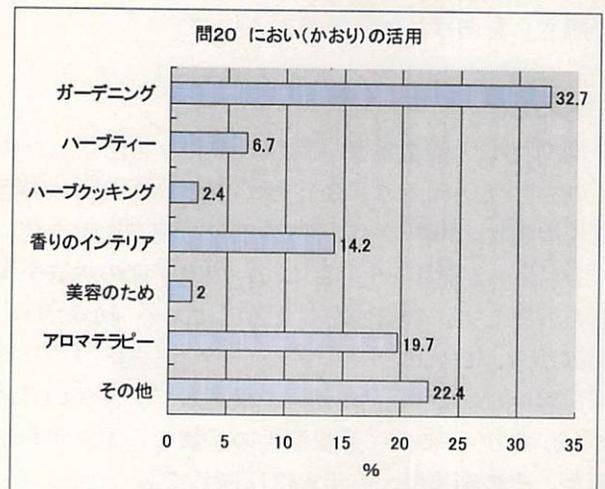


図3-16 におい(かおり)の活用

ープ・ミストの散策路(小径)の設置」「ハーブガーデン・かおりの喫茶店の設置」「懐かしいと感じるにの配置」「みずのにの配置」があげられている。

② 樹木・草花の植栽

現在の植栽以外に、「花やかおりのある樹木を植栽」「市の花であるキンモクセイの植栽・キンモクセイの植栽」「ラベンダーのかおり・バラのかおり」「桜の木の植栽」「沈丁花・梅」「手のかからない樹木・草花の植栽」があげられている。行政や管理者だけではなく、各戸も積極的な参加を求めている。

(3) まちづくりへの要望

① 視覚的な側面

これには、「目で楽しめる季節が増える」「緑を減らさない」「緑あふれるスペースを創り出す」があげられている。

② 維持管理

これは、行政や管理者への要望として、「植物の手入れ」があげられ、「手入れのための町費の徴収」が提案されている。

③ その他

その他としては、「全ての面で不快にならない街(づくり)」「日よけのための高木の配置」「自然と共存したまちづくりの要望」があり、さらに「かおりのまちづくりを進展して欲しい」という要望もあった。

(4) 広報・PRなど

行政や管理者、自治会などへの要望と思われるもので、「かおりをテーマにしたまちづくりをもっと知らせる」があげられた。また、全般的に「まちのかおり」を評価する回答が多かった。かおりとは関係のない「治安の悪さ」をあげた回答者が1人いた。

4. おわりに

今回も住宅・都市整備公団が「かおりを活用した街づくり・住まいづくり」を行ってきた香久山団地の居住者を対象に、昨年4丁目・5丁目の調査に引き続いて、1丁目・2丁目・3丁目について本年度の調査を実施した。そして、快適性を与える「にの(かおり)」の側面から、香久山団地の街づくり・住まいづくりへの「にの(かおり)」の効果を検証して、住民の「にの(かおり)」に関する快適性の意識の一端を明らかにした。その結果は、昨年とほぼ同じであった。

季節を多くの居住者が「にの(かおり)」で感じて

いることは、日本人として共通のものであることが、少ないサンプルではあると言えるのではないかと考えられる。それに貢献しているのが、草花・樹木の「にの(かおり)」であり、これは居住者に心地よさを与えるとともに、安らぎや懐かしさをも与えている。したがって、気になるにの1番目に自然があげられているのは居住者が常に嗅覚を研ぎ澄ませているといえる。このような居住者は香久山団地が好きであり、その多くが団地内を自然に親しむためによく散歩している。そして、団地の中で嗅覚を研ぎ澄ませて、季節毎に季節の「にの(かおり)」を感じている。一方、団地内には自然以外に多くの人工的なにの(悪臭)があり、研ぎ澄ませているが故に換気扇排気口から出るにの、ごみ集積場のにの、自動車の排ガスのにのには敏感になり、気になるにのとしてあげている。

このような居住者が、住宅・都市整備公団の「かおりを活用した街づくり・住まいづくり」を知っていたかどうかをみると、居住者の多くは知ってはおらず、自由回答にもあるように、PR・広報不足がその大きな要因になっているといえる。しかしながら、このテーマのまちづくりへの関心は、程度の差はあれ、多くの居住者が持っており、「にの(かおり)」の環境整備に関心を持って参加したいという意欲がみられる。

ともあれ、自由回答にみられるように、不快なにの(悪臭)への削減要望は、問16と併せてみても強い反面、よい「にの(かおり)」がする草花・樹木を、住宅や団地内に配置する要望も強く、それも行政や管理者任せではなく、住民自らが配置して快適な環境づくりを行っていく意欲を持っていると言える。居住の快適性は、「にの(かおり)」からつくられ、それには、草花・樹木と言った自然が必要不可欠なものと言うことができる。

今後の展開として、今回は実施できなかった昨年度の調査と合わせた香久山団地全体の集計と、属性などとのクロス集計を行い、住民の「にの(かおり)」に関する快適性の意識の一端をさらにつきつめて行くことがあげられる。

謝辞

本調査の実施にあたり、多くの関係者のご協力を得たことを感謝します。特に、アンケートに真摯に回答していただいた回答者の皆さん、それから本調査を実施するにあたり適切な助言・指導をいただいた独立行政法人都市再生機構中部支社の関係者の皆さんには厚

くお礼申し上げます。なお、本調査は、名古屋産業大学環境経営研究所の平成21年度共同研究費を使用して実施しました。

参考・引用文献

- (1) 環境庁大気保全局大気生活環境室編著(2000)、快適なおい環境づくりに向けて、ぎょうせい
- (2) 住宅・都市整備公団中部支社(1998)、かおりを活用した街づくり・住まいづくり 街と住まいの環境としての「かおり」に関する研究報告書、住宅・都市整備公団
- (3) 和泉潤、宮田靖子(2009)、住宅地のおいに関する意識調査—日進市香久山4～5丁目を対象に—名古屋産業大学環境経営研究所年報第8号、pp.1-18.